



令和4年2月
横浜市立恩田小学校
TEL (961) 7651
FAX (961) 6014



「小さな卒業」

副校長 齋藤 千枝

まだ2月ですが、卒業を迎えようとしている6年生を思い、「卒業」について考えてみました。

私は子どもの頃、シャンプーの泡を洗い流すときに顔にかかるのが苦手で、シャンプーハットをつけないとだめでした。それをつけなくてもシャンプーができるようになったとき、「シャンプーハットとさよならだ。」

と、思いました。なにか一つ大人になったような気分でした。それは、シャンプーハットからの卒業でした。

「卒業」・・・改めて辞書で調べてみました。

- ① 規定の学業を終えること
- ② 十分に習得しおわること
- ③ ある段階を乗り越えること
- ④ 引退。降板。

「シャンプーハット」は、③に当てはまるのだと思います。そして3月に6年生が迎える「卒業」は、①なのでしょう。しかし「規定の学業を終えること」の卒業だけではないと思います。シャンプーハットと同じように「なにか」がもう必要なくなる「卒業」もたくさんあるのだと思います。それは、毎日背負ったランドセル、汗がたくさん染み込んだ体育着、ていねいに書いてほめられたノート・・・ものだけでなく、人からの卒業も。

この「卒業」は、6年生に限らず他学年でも大人でもだれにでもあるのだと思います。あの時の、シャンプーハットをもう使わなくても大人と同じようにシャンプーできるんだという喜びと自信。ほんのちょっとだけかもしれないけれど、一歩前に進むことができた自分。

卒業式は大きな節目です。節目があるからこそ、人はそこを境にぐんと育つのだと思います。そして「なにか」からも卒業するという事は、心の節目となくなってときには卒業式以上の意味をもちます。そんな小さな卒業を積み重ねていくことで、人はさらに大きく成長していくのだと思います。

「先生、私ね、もう補助板を使わなくても逆上がりができるよ。」

「先生、ぼくは、もう九九表を見なくても九九を全部言えるようになったよ。」

「ぼくは、恥ずかしがらずに手を挙げられるようになったんだ。」

子どもたちの「小さな卒業」。積み重ねていく姿。きらきらした瞳。私たちはこれからも、応援し、見守り続けていきたいと思っています。